

小山市立博物館

博物館だより

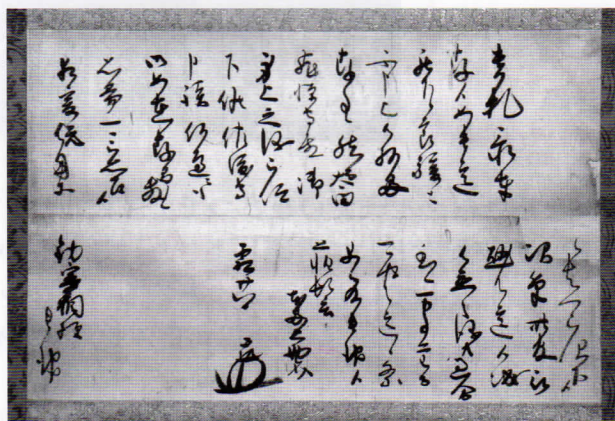
2019
8.15

69

祝 小山市制65周年記念 第72回企画展

「小山藩主本多正純」

令和元(2019)年10月26日(土)～12月1日(日)



勤修寺光豊宛本多正純書状 東京都・徳本寺蔵



『釣天井宇都宮奇談』(当館蔵)に描かれた本多正純

慶長13年(1608)頃、下野国小山に本多正純(1565～1637)が入封し、「小山藩」3万3千石が成立します。正純は、父正信とともに徳川家康に仕えた武将で、関ヶ原合戦前後より頭角をあらわし、駿府大御所政治においては随一の側近と言われました。江戸幕府草創期に正純が小山に配置されたことは、その地理的重要性も示していると言えます。2019年は、正純が小山から宇都宮へ移封して400年に当たります。本展示会では関連資料を含めた多彩な展示資料から、小山藩と本多正純の実像に迫ります。郷土小山の歴史はもとより、本市の魅力の再発見につながればと考えております。

【関連事業】

申込は10/8(火)から電話で、先着順

講演「宇都宮釣天井」

講師 神田真紅

11月10日(日) 13時30分～14時30分

当館視聴覚室 定員50名(無料)

講演会「本多正純・忠純による小山・榎本領支配」

講師 國學院大學栃木短期大学教授

坂本達彦氏

11月23日(土) 13時30分～15時

当館視聴覚室 定員50名(無料)

【開館時間】

9時～17時(入館は16時30分まで)

【入館料】

大人200円(100円)、大高生100円(50円)

中学生・義務教育学校生以下無料。

※()内は 20名以上の団体料金。

※今年度の車屋美術館の半券で、大人100円、高・大生50円に割引

※11/3日(日)[文化の日]、23日(土)[勤労感謝の日]は無料

【期間中休館日】

月曜日(11/4は除く)、11/5(火)、11/22(金)

【問い合わせ】

博物館 ☎ 0285-45-5331

栃木県立博物館地域移動博物館 「恐竜」

【開催期間】

令和元(2019)年7月20日(土)～9月1日(日)

【開館時間】

午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

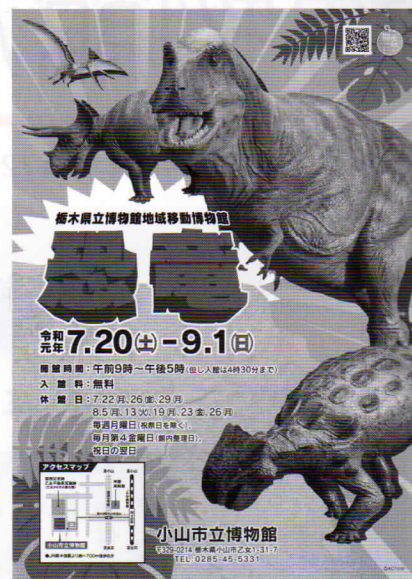
【入館料】

無料

【休館日】

7月 22日(月),26日(金),29日(月)

8月 5日(月),13日(火),19日(月),23日(金),26日(月)



中生代の覇者「恐竜」。恐竜は、は虫類から進化を遂げたグループのひとつです。彼らは、三疊紀後期から白亜紀末までの約1億5000万年間、陸上の支配者として君臨しました。この長い長い時間の中で、恐竜たちはさまざまな環境に適応し、進化をしていきました。あるものは肉を好んで食べ、あるものは植物を好んで食べるようになりました。また、身体を巨大化させたものや、空を目指したものもいます。

今回の展示では、恐竜時代の幕開けを象徴する「コエロフィシス」から、恐竜が滅亡する頃に生きていた「ティラノサウルス」まで、栃木県立博物館が所蔵するさまざまな恐竜たちを一堂に展示します。かつて陸上の支配者だった恐竜たちに、会いに来て頂ければ幸いです。

【展示構成】

- | | |
|--|----------------------------|
| I 三疊紀 恐竜時代の幕開け
・さわってみよう | II ジュラ紀 恐竜たちの繁栄
・爬虫類の時代 |
| III 白亜紀
・空を目指した恐竜たち
・白亜紀の植物食恐竜
・白亜紀の肉食恐竜
・植物食恐竜のえさ | IV インスタコーナー |



アンキロサウルスの尾 栃木県立美術館蔵

コラム 恐竜展

教育担当 森田 貴友

今回の展示会を開くに当たり、40年間もの間そう思い込んでいたことが、実は間違いであったことを再発見することになりました。

その1「プテラノドンは恐竜ではない」・・・エッ～！

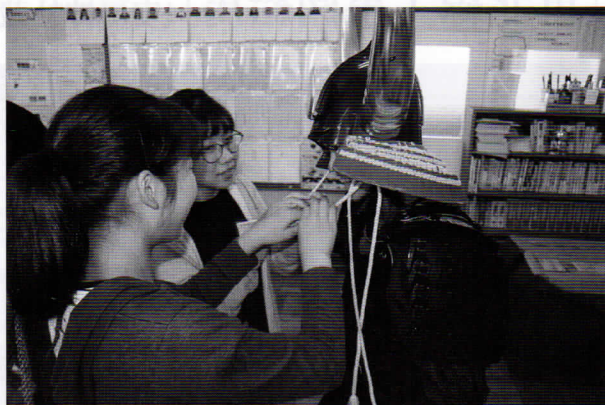
その2「鳥は恐竜が進化したものである」・・・なあ～にい～！！

恐竜とは、中生代に生息した「陸上の爬虫類」なので、空や海にいたものはそれぞれ翼竜や魚竜と呼ばれ、別に分類されるようです。また、恐竜は絶滅したものと思っておりましたが、「鳥類」は小型の恐竜が進化したもの、あるいは恐竜そのものらしいとのこと。

「学ぶ」、「知る」って、何歳になっても楽しいものですね。

甲冑着用体験

当博物館では、学校教育支援事業として学校からの要望に応じて博物館が協力・支援する様々な事業を行っています。今回はその中から『甲冑着用体験』についてご紹介します。甲冑着用体験では、各学校の学区の歴史や小山の歴史を学んだうえで、戦国武将の甲冑を着用します。戦国時代に終わりを告げ、天下泰平の江戸幕府成立の道筋をつけたといわれる小山評定。その小山評定とはどんな出来事だったのか、またどんな武将が参加したのかについて学習します。



体験で使用する甲冑は小山市が所有するもので、小山評定に参加した武将の甲冑です。それぞれの武将の人柄や甲冑の特徴を知ること、ますます甲冑着用への期待が高まります。博物館の職員から着用の仕方を教わってから、グループごとに協力して着せ合います。甲冑はレプリカとはいえ10～15kgほどの重さがあります。「かっこいい!」「重たい!」「動きづらい!」甲冑を身にまとった子どもたちから次々に出てくる感想。恥ずかしそうにしながらも、子どもたちはみんな笑顔で太刀を構えてポーズをとります。そして子どもたちなりに、当時の戦の様子や戦国武将に思いを巡らせます。

戦国武将の甲冑を身に纏うという普段ではなかなかできない体験をすることで、日本の歴史や小山の歴史に興味をもってもらえることを期待しています。

発明のはなし 3

「愛の心で発明している!」

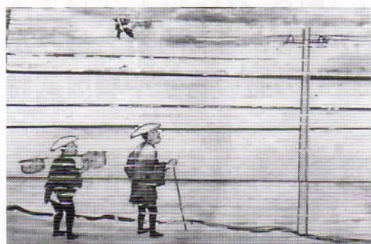
古今東西、人類の夢を実現し、その発展にとってかけがえのない創造力の成果が発明です。博物館では、月2回36名の子どもたちと「小山市少年少女発明クラブ」の活動をしています。また、毎年4月に科学技術週間の一環として『発明の日・発明創作教室』を行っています。趣旨は、“科学技術に関し、広く一般国民の関心と理解を深め、もって我が国の科学技術の振興を図る”としています。今年度の発明創作教室では、抽選で会員になれなかった子どもたちにも声をかけ、次年度にもつながる活動として、磁石の極の性質を利用した楽しい工作「おどるバレリーナ」を作りました。



さて、発明にはそれにまつわる人々の出来事の様々なエピソードがあります。努力、偶然、幸運、不運など、そこには人間のドラマがあります。今回は、日本の著名な発明家のドクター中松（中松義朗）氏の話です。その功績は日本よりむしろ海外で認められています。中でも「灯油ポンプ」は母親への愛情から生まれた発明品です。これはもともと「醤油チュルチュル」といって、醤油を移し変えるために発明されたものです。きっかけは中松氏が中学生の時に、母親が醤油を一升瓶から小瓶に移し変える様子を見たことです。寒さの中、凍える手で醤油を移し変えている母親の姿を見て、「楽に移し変えられるようにしてあげたい」と思った中松少年は、試作と実験を繰り返した結果「醤油チュルチュル」を発明しました。これを使用した母親が、笑顔で「便利ね、これ!」と言ってくれた事がとても嬉しかったそうです。中松氏は著書の中で「私は『愛の心』で発明している」と語っています。

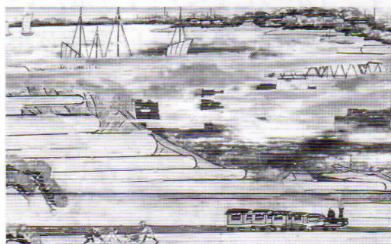
常設展示資料紹介①

「東北線工事図絵馬」(安房神社蔵・市指定民俗文化財)



部分拡大

※1



※2

市内安房神社に奉納された大型絵馬で、寄託資料として小山の近代を紹介するコーナーに展示されています。

明治18年(1885)7月、大宮一宇都宮間に鉄道が開通し、小山に初めて汽車が走ります。しかし、開通当時は難工事とされていた利根川の架橋が完成していなかったため、乗客と貨物は栗橋で一旦降車し、舟に乗り換えて利根川を渡り、また向かいにある中田で汽車に乗車するという、なんとも不便な形がとられていました。

開通から約一年後の明治19年(1886)6月、待望の鉄橋が完成します。この絵馬はその同じ年の10月に、地元粟宮在住の線路工夫の男性あわのみやによって奉納されたものです。おそ

らくこの人物が鉄橋建設などの鉄道工事に携わったことから、無事完成を記念して納められたものと思われていますが、そこからは、新しい時代の礎となる鉄道工事に携わった自身の仕事への誇りも感じ取ることができます。

絵馬を見ると、画面下段には江戸時代と変わらぬ宿場の風景とともに、それとは不似合いな電信柱を見上げる旅人も描かれています。^{※1}中段には小山駅を出発した蒸気機関車が走り、その上に完成したばかりの利根川の鉄橋、すぐ奥にはそれまで輸送の主役であった舟運の様子がみられます。^{※2}この絵馬には、明治新政府の下で急速に日本の近代化が推し進められる中、新旧が入り替わる間にその両方が混在する当時の様子が描かれており、時代を映した貴重な歴史資料といえます。

参考文献: 小山市史編さん委員会『小山市史 通史編Ⅲ 近現代』

寄贈者芳名

次の方から貴重な資料をご寄贈いただきました。厚くお礼を申し上げます(敬称略)

- 岸本 キミエ(小山市若木) 筥迫 1点、着物 2点
- 長瀬 健(宇都宮市築瀬) 文書 一式、写真 一式

発行年月日 令和元年8月15日
 発行 小山市立博物館 (JR宇都宮線間々田駅西口下車徒歩10分)
 〒329-0214 栃木県小山市乙女1-31-7
 電話 (0285) 45-5331 FAX (0285) 45-5247
 H P <http://www.city.oyama.tochigi.jp/site/hakubutu/>
 印刷 株式会社ダイサン小山

